PRESS RELEASE

思いを、はせる。
長谷工グループ
HASEKO

２０２６年９月１７日

京都大学下鴨休影荘（湯川秀樹博士旧宅の再生事業）
「第 67 回 BCS 賞」受賞
～歴史的建築の再生と景観継承が高評価～

株式会社長谷工コーポレーション(本社：東京都港区、代表取締役社長：熊野 聡、以下「当社」）は、当社が建築主として事業に携わった「京都大学下鴨休影荘（湯川秀樹博士旧宅)」(※1)が、一般社団法人日本建設業連合会「第 67 回 BCS 賞」(※2)を受賞しましたのでお知らせいたします。

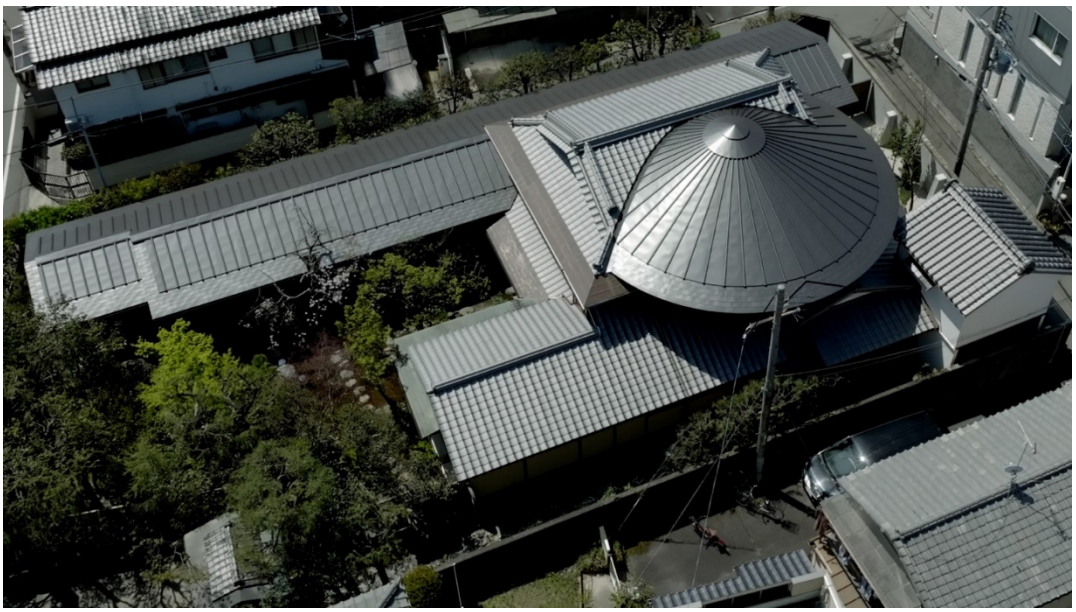
「BCS 賞」は、昭和 35 年（1960 年）に創設され、以後、わが国の良好な建築資産の創出を図り、文化の進展と地球環境保全に寄与することを目的に、毎年、優秀な建築作品を表彰しているものです。「第 67 回 BCS 賞」では、75 作品の応募があり、京都大学下鴨休影荘（湯川秀樹博士旧宅）を含む 15 作品が受賞しました。

今回の受賞では、「下鴨の閑静な住宅街で築 90 年を超える老朽化した住宅建築を、丁寧な解体調査と継続的な行政との協議により保全・再生し次世代に残した。湯川博士(※3)ゆかりの建築空間とともに主庭の風景が守られ、文化的な記憶の継承と、地域景観の発展的継承を両立させた良い事例である」と高く評価されました。

(※1)https://www.haseko.co.jp/hc/information/upload_files/20240605_1.pdf

(※2) https://www.nikkenren.com/kenchiku/bcs/

(※3)1949 年(昭和 24 年)日本初のノーベル(物理学)賞受賞。日本の科学技術の発展に優れた功績のあった学者



<外部(空撮)写真>　[京都大学提供]

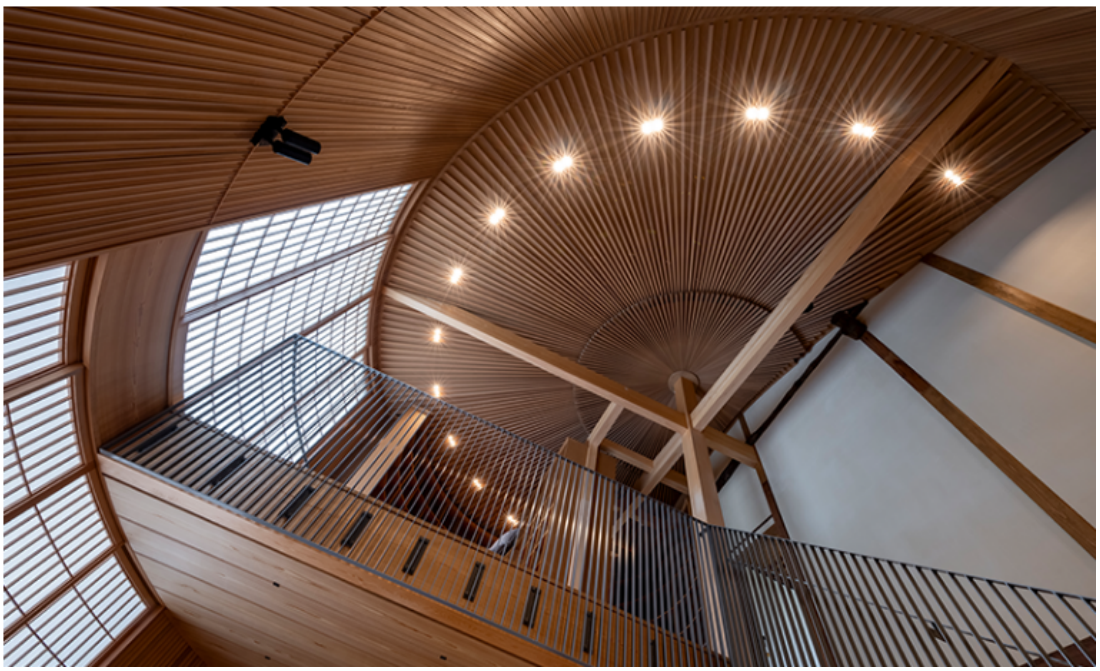
【「京都大学下鴨休影荘」（湯川秀樹博士旧宅）について】

「京都大学下鴨休影荘（湯川秀樹博士旧宅）」は、日本人初のノーベル(物理学)賞受賞者である湯川秀樹博士が個人の住宅として晩年を過ごした歴史的建築を、国立大学法人京都大学（総長：湊　長博）の迎賓施設として再生した事業です。博士の功績・足跡を後世に伝え、わが国の科学・技術・芸術の発展、人材育成に資する施設として有効活用するという京都大学の考えに賛同し、当社が土地・建物を取得。設計は株式会社安藤忠雄建築研究所（本社：大阪市北区、代表取締役：安藤 忠雄)、施工は当社グループの株式会社細田工務店(本社：東京都杉並区、代表取締役社長：川﨑 修宏)と伝統的な木造建築を得意とする株式会社安井杢工務店(本社：京都府向日市、代表取締役：安井 洋)(※4)が担当し、京都大学へ設計・施工を合わせて寄付することで本再生事業が実現しました。旧宅の座敷・書斎・応接間をそのまま残しつつ、円形ロビーなど新旧融合のデザインを採用。伝統技術と現代技術を融合し、難工事に挑戦しました。庭園や蔵など歴史的価値の高い資産も保存し、地域との調和も重視しました。完成後は国内外の研究者交流拠点として活用される、社会的・学術的価値の高い建築物となっています。

(※4)創業元禄元年(1688 年)。堂宮、数寄屋等の純日本建築のみならず、近代建築の設計・施工にも取り組む

【「京都大学下鴨休影荘」（湯川秀樹博士旧宅）概要】

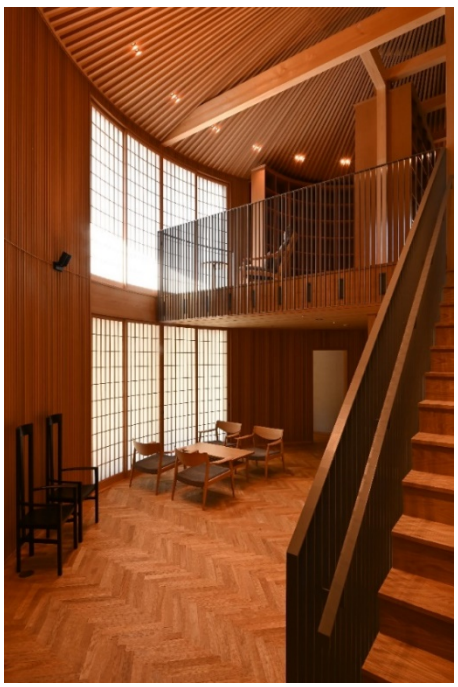
所　在　地：京都市左京区
敷 地 面 積：745.41 ㎡
延 床 面 積：358.18 ㎡　＜改修後＞
構造・規模: 木造 2 階建
建　築　主：国立大学法人京都大学・株式会社長谷工コーポレーション
設　　計：株式会社安藤忠雄建築研究所
施　　工：株式会社細田工務店(長谷工グループ)・株式会社安井杢工務店
工　　期：2023 年 4 月～2024 年 3 月



<円形ロビー（増築部）>　[撮影：小川重雄]

<庭景観写真>　[撮影：小川重雄]

（母屋から望む庭）
<内部写真>　[撮影：小川重雄]



（居間・読書室の吹き抜け）[撮影：小川重雄]

（ラウンジ）　[撮影：小川重雄]